

逢初川土石流の発生原因調査に関する地質調査(ボーリング)実施状況(12月13日現在)

地質調査(ボーリング)の目的

以下の点を把握するために地質調査(ボーリング)を実施します


- ・どのような地層が、どのくらいの厚さで堆積しているのか
- ・土はどのような特徴があり、どのくらいの強度があるのか
- ・地下水はどこにあり、どのように流れているのか




地質調査(ボーリング)でわかること

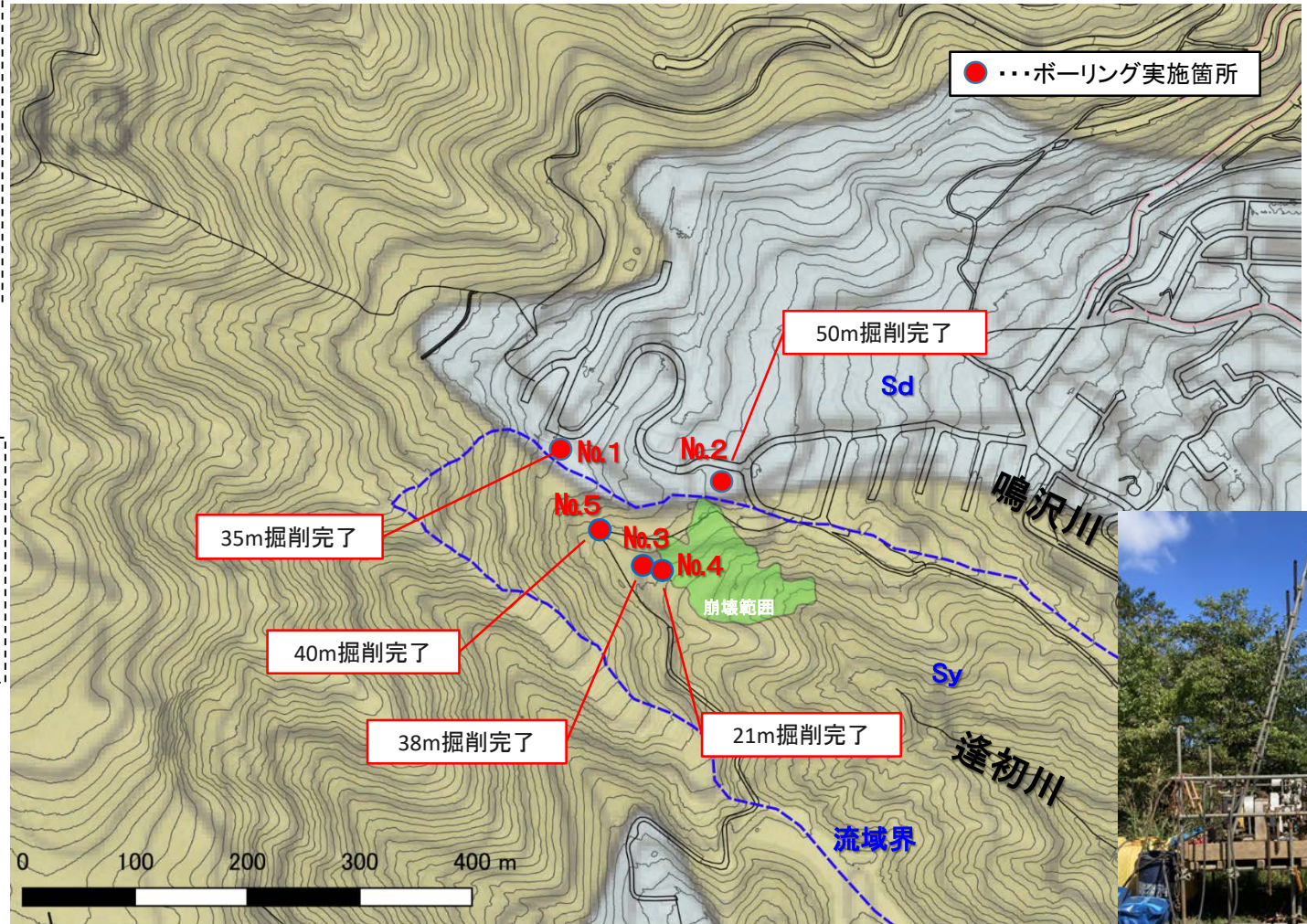
- ・ボーリングで採取した土から地層の種類と厚さ
- ・ボーリングで採取した土で各種土質試験を実施し、土の特徴や強度
- ・ボーリング孔の地下水位等から地下水の流れの方向

5万分の1地質図幅
熱海

 Sy: 中期更新世の
安山岩-玄武岩質安山岩溶岩及び火砕岩

 Sd: 後期更新世-完新世の、山地緩斜面
堆積物(礫及び砂からなる)

※Sdは岩戸山等の古い崩壊地の堆積物
と考えられる。



No.1ボーリング実施状況

コア写真 No. 5



岩盤ボーリング柱状図

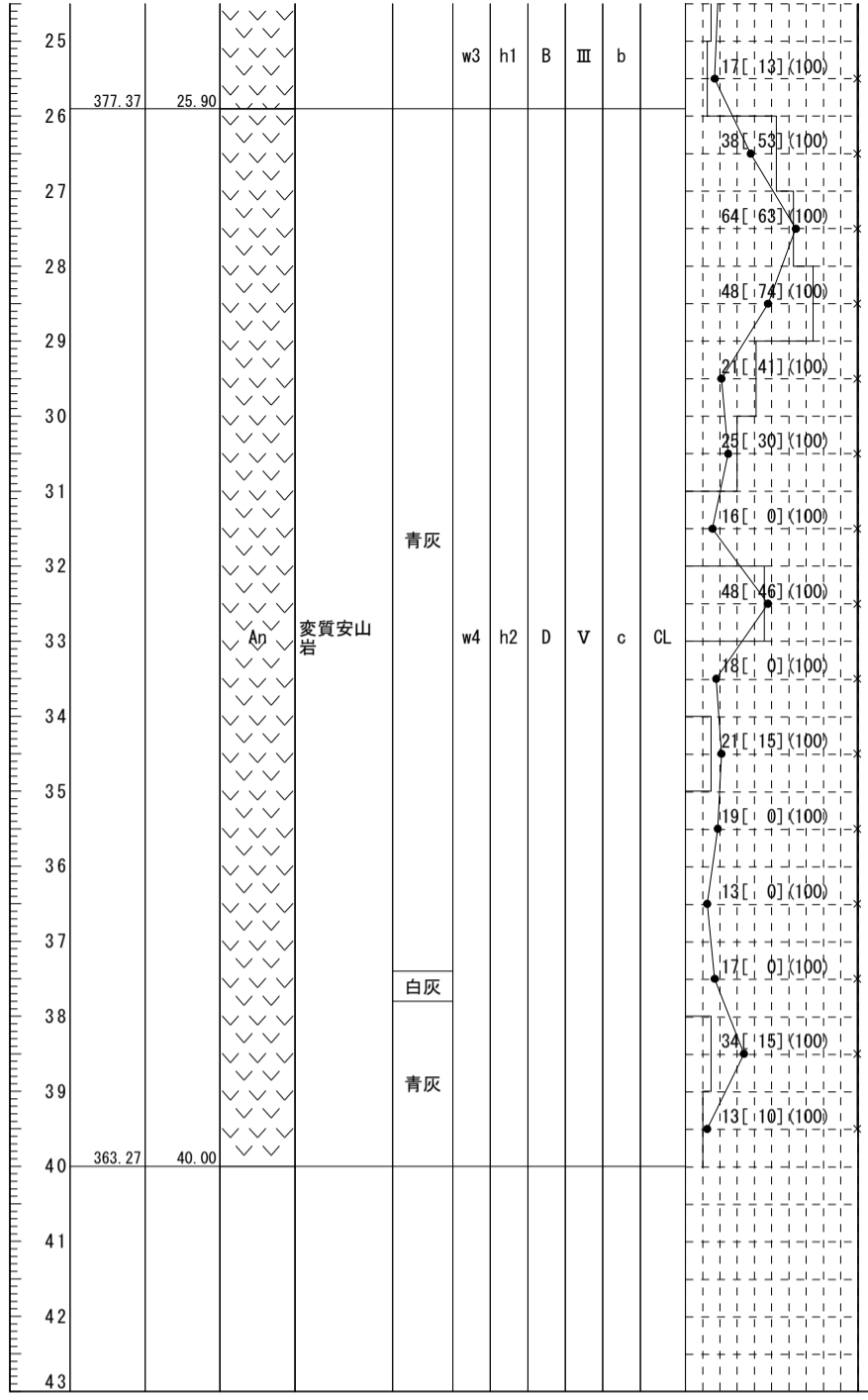
調査名 (仮称) 令和3年度逢初川地質調査

事業・工事名

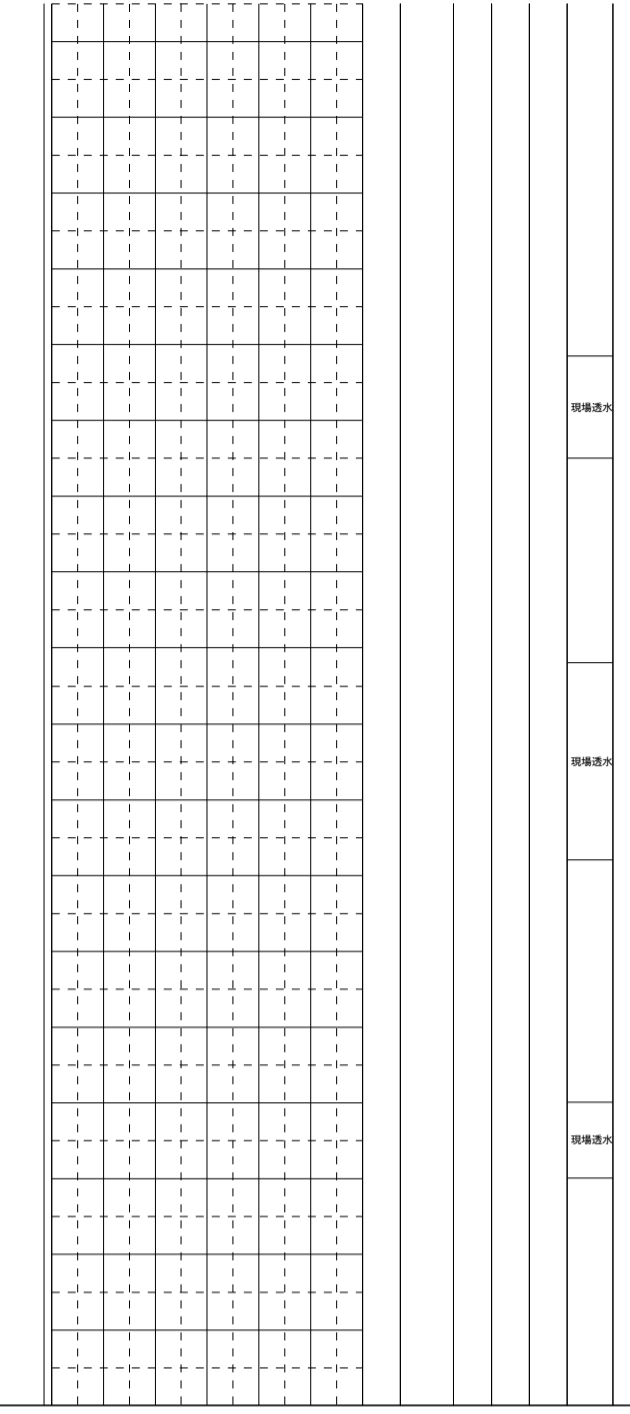
調査目的及び調査対象

ボーリング名	No.5	調査位置	静岡県熱海市伊豆山地先	北緯	35° 07' 19.1357"
発注機関	静岡県熱海土木事務所	調査期間	令和3年11月17日～ 令和3年12月 4日	東経	139° 04' 15.4480"
調査業者名	電話	主任技師	地質調査技師登録番号	現場代理人	地質調査技師登録番号
孔口標高	H=403.27m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	40.00m	度	0°	向	鉛直 90°
使用試験機	YBM-05DA-2	エンジン	NFAD-8	ポンプ	V5-P
コアダテ	鑑定者	地質調査技師登録番号	ボーリング責任者	地質調査技師登録番号	

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬さ	割れ目の形状	岩等級	コア採取率 (%)	最大コア長 (cm)	RQD [%]	記述	孔内水位 / 測定月日	標準貫入試験				室内試験	削孔状況						
																深度	N値	50回の貫入量	打撃ごとの貫入量			位置	試験	削孔速度 (cm/h)	孔径・孔壁保護	送水	回転数 (rpm)
1	400.72	2.55	BSM-G	盛土(砂・礫混じりシルト)	暗褐色	w5		E	VIII	2 [0] (100)				φ=10~30mmほどの角礫~垂角礫を混入する軟らかなシルトである。全体に粗砂を少量混入する。GL-1.5~2.0m間は褐色を呈し砂分の混入が多い。	11/22 2.15	現場透水	300	101/ケシング	打ち込み/ケ	0	0	0	0	0	0	0	0
2					褐色					3 [0] (100)					11/18 2.65		600	83/ケシング	打ち込み/ケ	0	0	0	0	0	0	0	0
3					暗褐色					16 [0] (100)							120			1	80	0	0	0	0	0	0
4					褐色					18 [0] (100)				φ=5~30mmほどの円礫~角礫を主体とする。L=100~180mmほどの安山岩や溶岩からなる玉石を多く混入している。礫間を充填する基質は、シルト分を多く含む中砂~粗砂である。GL-5.8~6.0m間は、円礫が主体である。GL-4.8m付近で循環水が逸水する。GL-7.23~7.55m間には、木片が多く混入している。			85			1	80	0	0	0	0	0	0
5					褐色					12 [0] (100)							100			1	80	0	0	0	0	0	0
6					暗褐色					17 [0] (100)					12/ 3 5.47		120			1	80	0	0	0	0	0	0
7	395.72	7.55	BSGM	盛土(玉石混じりシルト質礫)	暗褐色	w4		D	V	8 [0] (100)					11/19 6.11	現場透水	85			1	80	0	0	0	0	0	0
8					暗褐色					11 [0] (100)							54			1	100	0	0	0	0	0	0
9	394.37	8.90	6M	シルト質礫	暗灰	w4		D	V	5 [0] (100)				φ=5~40mmほどの垂円礫を主体とし、まれにφ=65mmほどの礫も点在している。礫間を充填する基質は、シルト分を多く含む粗砂である。	12/ 1 8.25		120			1	100	0	0	0	0	0	0
10	393.27	10.00	4n	強風化安山岩溶岩	褐色 暗灰	w4 h1	D	V	d	D	8 [0] (100)			シルト混じり礫状コアで採取される。礫は、風化残りの安山岩礫である。GL-9.4~9.9m間は、棒状コアのように採取され、やや硬い感触はあるが、指で容易に潰すことができるほどの硬さである。GL-9.9~10.0m間は、礫状コアで採取される。	12/ 2 9.35		100			1	100	0	0	0	0	0	0
11					暗灰					20 [1] (100)				GL-9.4~9.9m間は、棒状コアのように採取され、やや硬い感触はあるが、指で容易に潰すことができるほどの硬さである。GL-9.9~10.0m間は、礫状コアで採取される。	11/25 10.80	現場透水	75			1	100	0	0	0	0	0	0
12					黒灰	w4	h1	C	III	b	CM	18 [25] (100)					75			1	100	0	0	0	0	0	0
13					暗青灰	w4	h2	D	V	c	CL	11 [0] (100)						60			2	100	0	0	0	0	0
14					暗灰	w4	h1	C	IV	c	CM	24 [37] (100)		硬質な礫状~短柱状~棒状コアで採取される。斜め、縦キレツは存在するが、キレツ面に変色はなく、粘土を挟んでいる箇所も少ない。コアは、ハンマーの打撃でないと割れないものが主体である。GL-13.0~13.75m間には、礫状~短柱状コアで採取される変質安山岩であるが、脆いコアが多い。GL-14.55m付近には、1.0cmほどの厚さで粘土を挟んでいる。GL-17.1mまでは、キレツ面やコアの外周に光沢があるが、17.1m以深は粗面となる。GL-15.0~15.15m、18.7~19.3m、19.5~20.0m間は、礫状コアで採取される。GL-19.7~21.0m間は、横や斜めのキレツが多く、礫状コアが主体である。GL-20.2~20.4m間は、灰色を帯びている。GL-21.65~22.25m、22.4~22.5m間は、変質安山岩を挟んでいる。GL-19.7~22.7m間は光沢のあるコアが主体であるが、22.7~25.9m間は粗面棒状コアで採取される。			60			2	100	0	0	0	0		
15					暗灰	w4	h1	C	IV	b		24 [29] (100)					11/22 6.6	現場透水	66			2	100	0	0	0	0
16					黒灰	w3	h1	B	II	c		24 [15] (100)						98			2	100	0	0	0	0	
17					暗灰	w3	h1	B	IV	b	CM	31 [16] (100)						69			2	100	0	0	0	0	
18					暗灰	w3	h1	B	III	b		15 [22] (100)						83	ダフル/Dc 泥水		2	100	0	0	0	0	
19					暗灰	w3	h1	B	IV	b		14 [10] (100)						11/24 6.6			2	100	0	0	0	0	
20					暗灰	w3	h2	C	IV	c		11 [0] (100)						66			2	100	0	0	0	0	
21					暗灰	w3	h1	B	III	b		22 [28] (100)						51			2	100	0	0	0	0	
22					暗青灰	w3	h2	D	V	c	CL	16 [23] (100)						11/25 6.6			2	100	0	0	0	0	
23					暗灰	w3	h1	B	III	b	CM	29 [47] (100)						93			2	100	0	0	0	0	
24					黒灰	w3	h1	B	IV	b		19 [15] (100)						60			2	100	0	0	0	0	



礫状～短柱状コアを主体に採取される。
 軟らかいコアとやや硬いコアが認められ、軟らかいコアは指で容易に潰すことができ、やや硬いコアであってもカッターナイフで削ることは可能である。
 斜めキレツや細かなキレツが存在するが、キレツ面は密着している。
 GI-29.5m以深から全体にやや硬いコアが主体となる。
 GI-38.0~40.0m間は、白灰色を帯びている。



11 29	97	2	100	0	W 2 6	6
69		2	100	0	W 2 7	7
84		2	100	0	W 2 7	7
11 30	69	2	100	0	W 2 7	7
105		2	100	0	W 2 7	7
75		2	100	0	W 2 7	7
12 1	65	2	100	0	W 2 7	7
83		2	100	0	W 2 7	7
90		2	100	0	W 2 7	7
12 2	55	2	100	0	W 2 9	9
85		2	100	0	W 2 9	9
93		2	100	0	W 2 9	9
12 3	75	2	100	0	W 2 9	9
12 4		2	100	0	W 2 9	9

66
ダブルDC

コア写真 No. 4 (深度 0.0~21.0m)



岩盤ボーリング柱状図

調査名 (仮称) 令和3年度逢初川地質調査

事業・工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	No.4	調査位置	静岡県熱海市伊豆山地先	北緯	35° 07' 18.2289"
発注機関	静岡県熱海土木事務所	調査期間	令和3年11月 8日～ 令和3年11月15日	東経	139° 04' 17.0418"
調査業者名	電話	主任技師	現代理人	コアダテ	ボーリング責任者
孔口標高	H=400.67m	角	方	地盤勾配	使用機種
総削孔長	21.00m	度	向	鉛直	エンジン
					ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名 (模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	割れ目の状態	岩級区分	コア採取率 (%)	最大コア長 cm	R Q D [%]	記号	標準貫入試験					室内試験	削孔状況	排水量 (L)				
															深度-N値図	N値	深	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量							
1										VI	0.1	0.1	100		1.15	4	300			11/8	120	1	80	0	0	4
2										VI	0.1	0.1	100		1.45	300			11/8	66	1	80	0	0	4	
3										VI	0.1	0.1	100		2.15	2	300			11/8	66	1	80	0	0	4
4										VI	0.1	0.1	100		2.45	300			11/8	66	1	80	0	0	4	
5										VI	0.1	0.1	100		3.15	4	300			11/9	66	1	80	0	0	4
6										VI	0.1	0.1	100		3.45	300			11/9	66	1	80	0	0	4	
7										VI	0.1	0.1	100		4.15	7	300			11/9	66	1	80	0	0	4
8										VI	0.1	0.1	100		4.45	300			11/9	66	1	80	0	0	4	
9										VI	0.1	0.1	100		4.75	2	350			11/9	75	1	80	0	0	4
10										VI	0.1	0.1	100		5.15	2	350			11/9	47	1	80	0	0	4
11										VI	0.1	0.1	100		5.80	6	300			11/9	66	1	80	0	0	4
12										VI	0.1	0.1	100		6.15	6	300			11/9	47	1	80	0	0	4
13										VI	0.1	0.1	100		6.45	300			11/9	66	1	80	0	0	4	
14										VI	0.1	0.1	100		7.15	4	300			11/9	66	1	80	0	0	4
15	386.27	14.40								VI	0.1	0.1	100		7.45	300			11/9	66	1	80	0	0	4	
16										VI	0.1	0.1	100		8.15	8	300			11/9	82	1	80	0	0	4
17										VI	0.1	0.1	100		8.45	300			11/9	66	1	80	0	0	4	
18	383.02	17.65								VI	0.1	0.1	100		8.75	8	300			11/11	66	1	80	0	0	4
19	382.92	17.75								VI	0.1	0.1	100		9.15	8	300			11/11	66	1	80	0	0	4
20										VI	0.1	0.1	100		9.45	300			11/11	66	1	80	0	0	4	
21										VI	0.1	0.1	100		10.15	4	300			11/11	82	1	80	0	0	4
22										VI	0.1	0.1	100		10.45	300			11/11	66	1	80	0	0	4	
23										VI	0.1	0.1	100		11.15	3	300			11/11	66	1	80	0	0	4
24										VI	0.1	0.1	100		11.45	300			11/11	66	1	80	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		12.15	6	300			11/12	47	1	80	0	0	4
										VI	0.1	0.1	100		12.45	300			11/12	47	1	80	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		13.15	3	300			11/12	82	1	80	0	0	4
										VI	0.1	0.1	100		13.45	300			11/12	82	1	80	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		14.15	6	300			11/12	82	1	80	0	0	4
										VI	0.1	0.1	100		14.45	300			11/12	55	1	80	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		15.15	13	300			11/12	82	1	100	0	0	4
										VI	0.1	0.1	100		15.45	300			11/12	82	1	100	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		16.15	50	150			11/13	84	1	100	0	0	4
										VI	0.1	0.1	100		16.30	460			11/13	84	1	100	0	0	4	
										VI	0.1	0.1	100		17.15	23	300			11/13	36	2	100	0	0	3
										VI	0.1	0.1	100		17.45	50	180			11/13	69	2	100	0	0	3
										VI	0.1	0.1	100		18.00	50	180			11/13	66	2	100	0	0	3
										VI	0.1	0.1	100		18.18	460			11/13	66	2	100	0	0	3	
										VI	0.1	0.1	100		19.00	貫入不能			11/13	85	2	100	0	0	3	
										VI	0.1	0.1	100		20.00	貫入不能			11/13	81	2	100	0	0	3	
										VI	0.1	0.1	100		21.00	貫入不能			11/15	81	2	100	0	0	3	

コア写真 No. 3



岩盤ボーリング柱状図

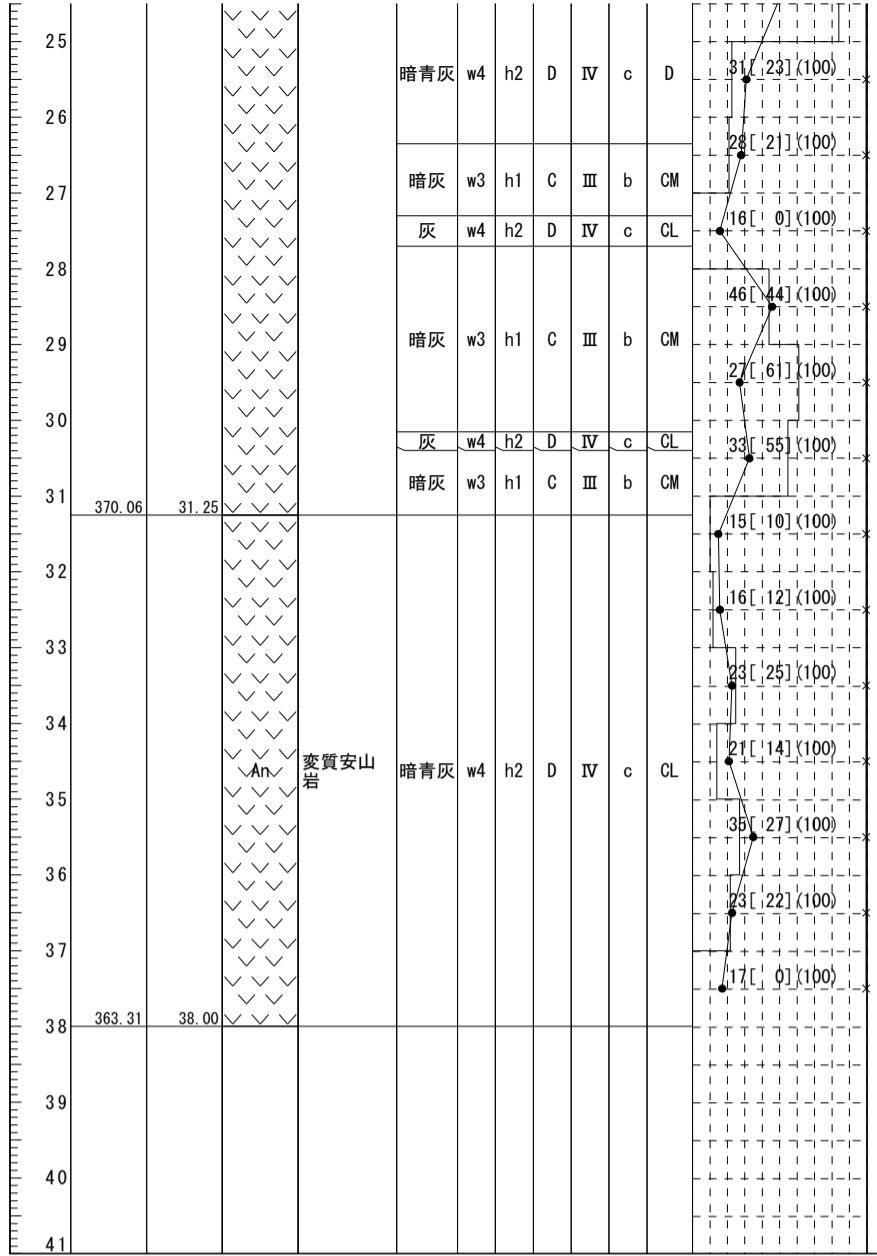
調査名 (仮称) 令和3年度逢初川地質調査

事業・工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	No.3	調査位置	静岡県熱海市伊豆山地先	北緯	35° 07' 18.4226"
発注機関	静岡県熱海土木事務所	調査期間	令和3年10月15日～ 令和3年11月 2日	東経	139° 04' 16.7534"
調査業者名	電話	主任技師	地質調査技師 登録番号:	現場代理人	地質調査技師 登録番号:
孔口標高	H=401.31m	角	180° 上下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	38.00m	度	0°	向	0° 水平 0° 鉛直 90°
地盤勾配		使用機種	試錐機 YBM-05DA-2	エンジン	NFAD-8
コ	ア	鑑	定	者	地質調査技師 登録番号:
ボーリング責任者	地質調査技師 登録番号:	ポンプ	V5-P		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩等級区分	コア採取率 最大コア長 RQD [%]	記	孔内水位/測定月日	標準貫入試験				室内試験	削孔状況								
															N値	深	50	自沈時の貫入量			削孔速度 (cm/h)	コアチップ・ビット	送水圧 (MPa)	回水圧 (MPa)	削孔水量 (L/min)	排水水量 (L/min)		
	400.71	0.60	BSGM	盛土(シルト質礫)	褐						VII	3[0](100)	φ=10~30mmほどの垂角礫~角礫を主体とする。基質はシルト分を多く含む中砂~粗砂である。	10/35						10/15	85	1	80	1	W2	4	4	
1											VII	4[0](100)									10/15	300	1	80	1	W2	4	4
2											VI	10[0](100)	φ=5~10mmほどの垂円礫~垂角礫を混入している。砂分は細砂~中砂が主体である。全体に湿潤で軟らかい。コアは、指で容易に潰すことができる硬さである。所々に小さな木根を混入している。	10/26						現場透水	60	1	80	1	W2	4	4	
3											VII	3[0](100)									10/16	100	1	80	1	W2	4	4
4											VII	4[0](100)									10/16	100	1	80	1	W2	4	4
5											E	5[0](100)	GL-2.3~2.4m, 2.6~3.6m, 4.6~5.0m, 5.9~6.2m, 7.0~7.3m, 7.8~8.7m, 8.9~9.1m, 9.6~10.1m間は礫分や細砂~中砂の混入が多い。								150	1	80	1	W2	3	3	
6					暗褐						VII	2[0](100)	GL-2.6~3.6m間には、プラスチック片やレンガ片を混入している。GL-4.0~4.1m間には、プラスチック片が混入している。							現場透水	200	1	80	1	W2	3	3	
7											VII	2[0](100)	GL-6.05m付近とGL-8.96~9.7m間には、大きな木根が混入している。								200	1	80	1	W2	3	3	
8											VII	2[0](100)	GL-1.0m付近、2.0~2.1m間、4.8m付近、9.9~10.0m間には、コンクリート片を混入している。							現場透水	200	1	80	1	W2	3	3	
9											VII	3[0](100)	GL-10.1~10.4m, 10.7~10.75m, 11.8~11.9m間は、硬質な安山岩の玉石である。								10/18	200	1	80	1	W2	3	3
10											VII	7[0](100)									300	1	60	1	W2	3	3	
11											IV	9[0](100)									300	1	60	1	W2	3	3	
12	389.36	11.95	BSM	盛土(礫・砂混じりシルト)	暗褐						VII	10[0](100)									10/19	100	1	80	1	W2	3	3
13					暗褐						V	11[0](100)	玉石を混入する砂礫である。基質はシルト分を多く混入する中砂~粗砂である。全体に固結気味である。							現場透水	100	1	100	1	W2	0	0	
14	386.81	14.50	GM	シルト質礫	暗灰						V	17[0](100)	礫はφ=5~30mmの垂角礫~角礫を主体とし、玉石はL=10cmほどである。	10/29							100	1	100	1	W2	5	5	
15					暗褐灰						V	8[0](100)	玉石は、硬質な安山岩からなるが、キレツは認められる。	10/25								150	1	100	1	W2	5	5
16					暗褐灰						V	15[0](100)	GL-13.9~14.0m間は、軟らかな礫混じりシルトであるが、中砂も少量混入している。								60	1	100	1	W2	5	5	
17	384.06	17.25	An	強風化安山岩溶岩	褐灰	w5	h2				D	20[30](100)	小さな木根も混入している。粘土状~砂状~礫状コアで採取される。岩芯まで風化・変質しているが、岩構造は認識できる。								10/22	100	1	100	1	W2	5	5
18					暗褐						IV	30[44](100)	コアは指で容易に潰すことができる。GL-16.35~16.9m間は、やや硬いコアで採取されるが、横キレツが発達している。	10/28							100	1	100	1	W2	5	5	
19					暗褐灰						II	62[90](100)		10/18							10/23	75	1	100	1	W2	5	5
20					暗青灰	w3	h1	C			CM	62[96](100)		10/30							10/25	75	1	100	1	W2	4	4
21					暗青灰						CL	58[56](100)	硬質な短柱状~棒状コアで採取される。斜め・縦キレツは認められ、開口しているものもある。	11/1							86	1	100	1	W2	4	4	
22					暗青灰	w4	h2	D			VII	24[31](100)	GL-18.0mまでは、キレツ面が褐色化している。	11/2							55	1	100	1	W2	4	4	
23					暗青灰	w3	h1	C			CM	21[54](100)	GL-17.9~18.7m間は、やや変質しており、カッターナイフで小さく削ることができる。	11/2							133	1	100	1	W2	4	4	
24					暗青灰	w3	h1	C			CM	28[19](100)	GL-20.3~21.7m, 24.5~26.35m, 27.3~27.7m, 30.15~30.35m間は、暗青灰色~青灰色の色調を呈し、やや軟らかいコアが主体である。	10/26							46	1	100	1	W2	4	4	
					弱風化安山岩溶岩						CM	49[84](100)	コアは指で潰すことはできないが、カッターナイフで削ることができる。	10/28							46	1	100	1	W2	4	4	

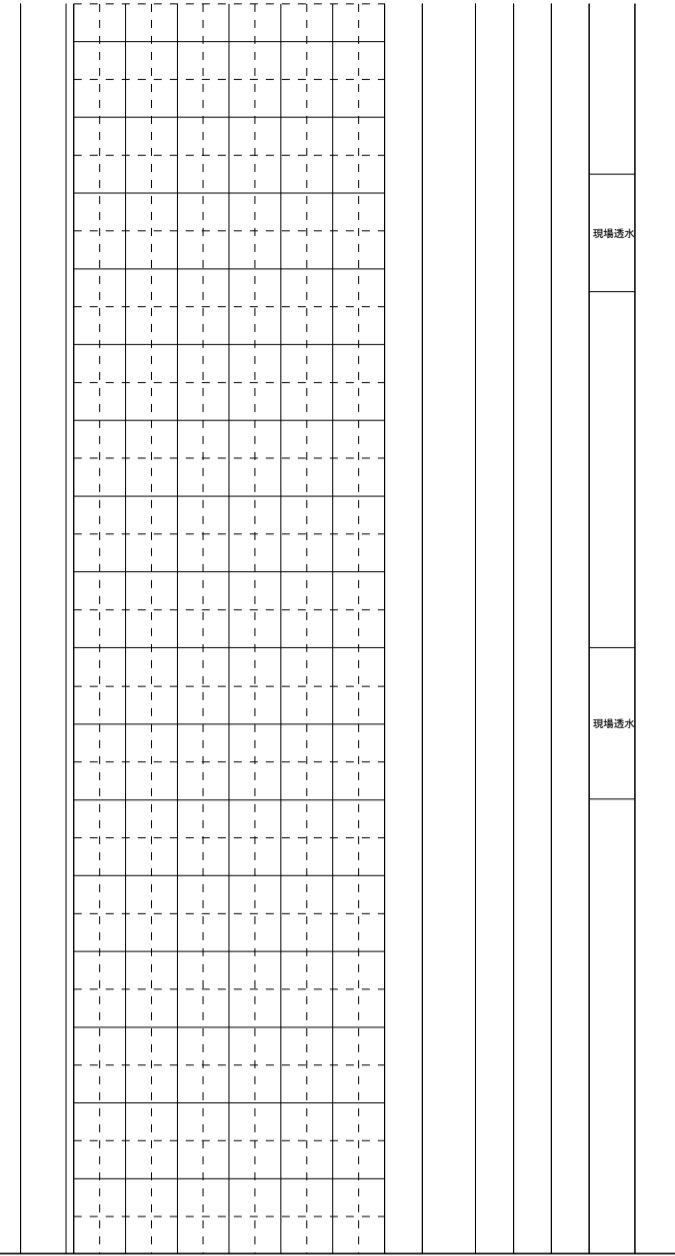


GL-23.7~24.0m間はキレツが多く、礫状コアとなる。小さな黄鉄鉱片や石英脈を混入している。

礫状~短柱状コアで採取される。粘土棒状コアのように採取される部分でも、指で潰すと礫状や板状となる。やや硬いコアであっても、カッターナイフで削れるほどの硬さである。

細かいキレツは認められるが、大半は密着している。
 GL-31.25~31.4m、33.85~33.95m、34.15~34.5m、34.6~34.9m間は、白灰色の色調をていしている。

GL-36.4~36.65m間は、薄く紫灰色を帯びている。
 GL-37.0~37.4m間は、暗灰色~紫灰色を帯びている。



86	1	100	1	2	4
100	1	100	1	W2	4
86	1	100	1	W2	4
75	1	100	1	W2	4
100	1	100	1	W2	4
100	1	100	1	W2	4
100	1	80	1	W2	3
86	1	80	1	W2	3
86	1	80	1	W2	3
100	1	80	1	W2	3
100	1	80	1	W2	3
86	1	80	1	W2	3
86	1	80	1	W2	3
133	1	80	1	W2	3

83 / ケーシング

ダブル / D C

コア写真 No. 2



岩盤ボーリング柱状図

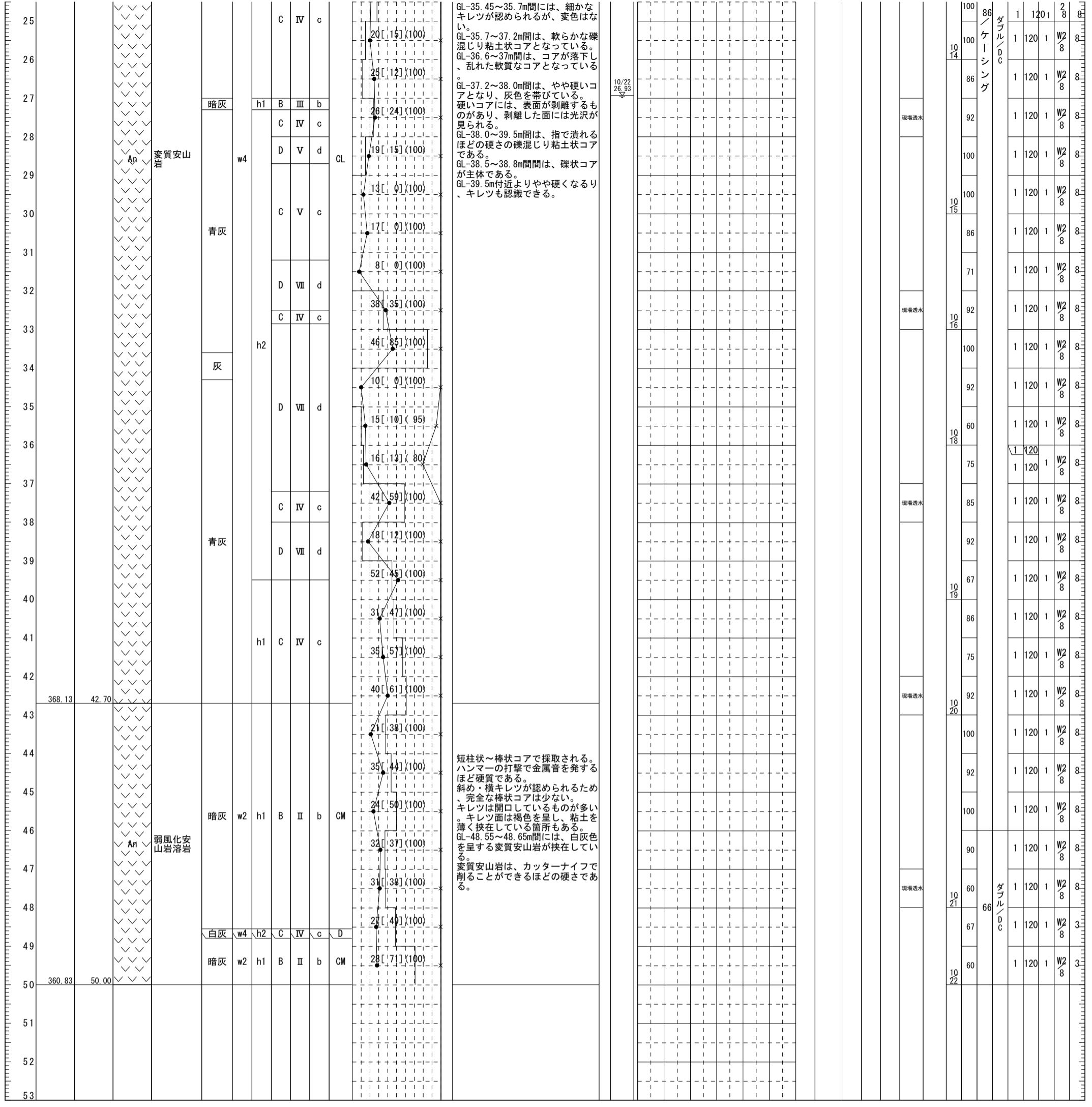
調査名 (仮称) 令和3年度逢初川地質調査

事業・工事名

調査目的及び調査対象

ボーリング名	No.2	調査位置	静岡県熱海市伊豆山地先	北緯	35° 07' 20.7514"
発注機関	静岡県熱海土木事務所	調査期間	令和3年10月7日～ 年月日	東経	139° 04' 15.6254"
調査業者名	電話	主任技師	地質調査技師登録番号:	現代代理人	地質調査技師登録番号:
孔口標高	H=410.83m	角	180° 上下 0°	方	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°
総削孔長	50.00m	度	0°	向	鉛直 0° 水平 0°
		地盤勾配	0°	使用機種	試錐機 YBM-05DA エンジン NFAD8EK
		コ	鑑	定	者
		ボーリング	責任者	地質調査技師	登録番号:
		ポンプ	V5-P		

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名(模様)	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩等級区分	コア採取率 —x— (%) 最大コア長 —●— cm RQD [%]	記事	孔内水位/測定月日	標準貫入試験					室内試験	削孔状況							
															深度-N値図	N値	深	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量		自沈時の貫入量	位置試験	原	削孔速度 (cm/h)	削孔径・孔壁保護	送水圧 (MPa)	回水圧 (MPa)	削孔水量 (L/min)
1			SM-C 礫混じりシルト質砂	暗褐 褐黄褐 褐灰 褐	E VII	VII	E VII	E VII	E VII	d	D IV	6 [0] (100)	φ=5~10mmほどの亜角礫~角礫を混入している。 L=50~100mmほどの玉石が点在している。 砂は凝灰質な中砂~粗砂である。玉石は、硬質なもの風化したものがあり、風化したものは指で潰れるものもある。 GL-2.9~3.2m、4.6~4.7m、5.0~5.3m間は、硬い玉石である。 GL-2.5~2.9m、3.55~3.95m、5.3~5.8m間は、風化した脆い玉石である。 風化した玉石でもキレツは認識できる。 GL-5.8~6.0m間は、褐灰色を呈するシルトが挟在している。	10/8 2.43	10/9 4.89	10/11 7.07	10/12 7.37	10/13 7.97	10/14 8.25	10/15 9.89	現場透水	10/7	63	1	120	1	W2	2
2	92	1										120											1	W2	2			
3	86	1										120											1	W2	2			
4	109	1										120											1	W2	3			
5	80	1										120											1	W2	3			
6	100	1										120											1	W2	3			
7			An 強風化安山岩溶岩	黄褐灰 暗褐灰 青灰 褐灰 黄褐灰 青灰 黄褐灰	h2	E VII	E VII	E VII	D	D IV	32 [58] (100)	粘土状~礫状~短柱状~棒状コアで採取される。 岩芯まで風化・変質が進んでいるが、岩構造は確認できる。 全体に軟質であるが、指で容易に潰すことはできない。 やや硬い短柱状や棒状コアは、キレツが認められる。キレツ面は黒褐色を呈している。 GL-7.0~8.2m間は、やや硬い粘土状コアとなっている。 GL-8.7m以深は、やや硬いコアが主体となるが、カッターナイフで削ることは可能である。 GL-10.1~10.9m間は、橙色を帯びている。 GL-11.4~12.1m間は、亜円礫が取り込まれている。 GL-12.65~13.3m間は、軟らかな粘土状コアである。	10/11 7.07	10/12 7.37	10/13 7.97	10/14 8.25	10/15 9.89	現場透水	10/8	67	1	120	1	W2	3			
8	75	1									120									1	W2	5						
9	100	1									120									1	W2	5						
10	100	1									120									1	W2	5						
11	75	1									50									1	W2	8						
12	109	1									50									1	W2	8						
13	92	1									50									1	W2	8						
14	100	1									50									1	W2	8						
15	60	1									120									1	W2	8						
16	75	1									120									1	W2	8						
17	100	1									120									1	W2	8						
18	100	1									120									1	W2	8						
19	80	1	120	1	W2	8																						
20	75	1	120	1	W2	8																						
21	100	1	120	1	W2	8																						
22	86	1	120	1	W2	8																						
23	109	1	120	1	W2	8																						
24	100	1	120	1	W2	8																						



100	86	ダブル/ケール/DC	1	120	1	2	8
100	100		1	120	1	W2	8
1014	86		1	120	1	W2	8
92			1	120	1	W2	8
100			1	120	1	W2	8
1015	100		1	120	1	W2	8
86			1	120	1	W2	8
71			1	120	1	W2	8
1016	92		1	120	1	W2	8
100			1	120	1	W2	8
1015	92		1	120	1	W2	8
60			1	120	1	W2	8
1018	75		1	120	1	W2	8
85			1	120	1	W2	8
1019	92		1	120	1	W2	8
67			1	120	1	W2	8
1019	86		1	120	1	W2	8
75			1	120	1	W2	8
1020	92		1	120	1	W2	8
100			1	120	1	W2	8
92			1	120	1	W2	8
100			1	120	1	W2	8
90			1	120	1	W2	8
1021	60	66	1	120	1	W2	8
67			1	120	1	W2	3
1022	60		1	120	1	W2	3

コア写真 No.1

